



シルバーだより

No. 270

平成24年12月1日

荒川シルバー大学

荒川区荒川3-49-1

岡田芳子

TEL 3801-5740

FAX 3801-5691

♡天空でごゆっくり♡・・・秋山理事長を偲んで

名誉学長 原田治子

車窓が額縁となって、外の風景がいくつもの名画のように移っていく。太陽が茜雲の中に溶けていくと、折り重なる山々の稜線が薄紫に染まりはじまる。こんもりとした小さな森、実りはじめた田圃に案山子がポツリポツリ、農家の軒先から洩れる灯、家路を急ぐ農夫。どれもが次第に暮れていく。

四人掛けのボックスには秋山さんの他に誰が坐っていたのだろうか、半世紀余りも経っているのだから思い出せない。岐阜で開催される民間教育団体の研究集会参加のため、四人は東京駅で待ち合わせ、すさまじい勢いで席を確保したことは覚えている。1958年（昭33）8月、学校は夏休み。秋山さんも私も連日の苦闘にかなり疲れていた。勤務評定、指導要領道德編の告示、指導要領の法的拘束など、次々と提示される文部省からの法令・通達に対する反対闘争はすさまじかった。私たち二人はその渦中にいたのだ。連日連夜の会合と抗議活動は延々と続いた。



水墨画のような風景に癒されたのか、小声でつぶやくように話しはじめた秋山さん。「原田さん、学校教育がこのままの状態が続いたら日本の国は滅びるわね。」
「同感。教師の目はますます子供にむけられなくなる。管理職や上司にばかり気遣ってね。勤務評定なんてとんでもない。」「うちの校長はどんな視点で職員を評価・評定するんだろう。」秋山さんの問いかけに、常日ごろから校長として全く認めていないあの姿を私は思い浮かべた。

校長室にこもりっぱなし。職員や子供と触れ合うことはほとんどなし。児童朝会や式辞の講和にテーマがない。何があっても指導助言らしきものはない。ただいるだけ。こんな人に勤務評定の権限を持たせるのは罪悪だ。

「秋山さん、私は勤務評定制度に絶対反対。でもこうなったら“この人に評定されるのなら”という優れた人に出会いたい。」

「そうよね。品格・指導力・包容力・情熱・人間的魅力のある校長になら勤務評定されてもいいとしなければ。」

「秋山さん、私ね、あの校長にペケの評定されても、それは私の勲章よ。」

この場面は、秋山さんを偲ぶほんのひとコマです。私が新米教師として第三日暮里小学校に着任したのが 21 歳。すでに在職していた秋山さんは 26 歳だったかな・・・。黒目がちでほっそりとした美しい人でした。あれからおよそ 60 年の付き合いです。二人はやがて勤務評定をする立場になり、しかも、二人ともに教職のスタートもゴールも第三日暮里小学校だったのです。20 代のあの日、車中で熱く熱く語り合った「校長像」。さて私たち二人はどんな校長だったのでしょうか。

- 荒川区立第二瑞光小校長 (S51年4月～55年3月)
- 荒川区第三日暮里小校長 (S55年4月～61年3月) 新校舎建設に尽力。夕やけ小やけの歌碑建立。作詞の中村雨紅は野口雨情の弟子。中村雨紅氏は三日小の教師だった。
- 校長退職後
 - ・ 荒川区教育委員 (2期8年) ・ 荒川シルバー大学学長(H7年3月まで) この間、シルバー便り発案発行。今日に続く。
 - ・ 荒川シルバー大学理事長 (H17年4月～24年2月まで) この間生涯学習センター内に事務所を確保。在学中の H24年2月23日死去。
- 褒章「瑞寶雙光章」 受賞 (H24年8月30日)
- 新日本文学会会員(ペンネーム 関柊子)退職後も短編小説を執筆していた。秋山さん人生後半の略歴をたどっているうちに、我が家の新築時に戴いた「照子書」の掛軸が心に染みてきました。

**雨ふれば雨を楽しみ晴るる日は晴を楽しむ楽しみあるところに楽しみ
楽しみなきところにも楽しむ 吉川英治のことば**

勝ち負けを嫌い、弱者に優しい。そして、穏やかな暮らしを求め続けた秋山さんの心情が伝わってくる文字です。

見かけによらず秋山さんは多才でした。自動車の運転・書道・木彫・陶芸・洋裁・料理・小説は世に出ることはなかったけれど、関柊子のペンネームで、本格的に取り組んでいました。秋山さんと 60 年にわたるおつき合いの途中で時々感じていたこと。それは「ある時いたずら小僧が現れて、秋山先生の人生の道しるべの方向を、ちょっとばかり変えたんじゃないかしら」と。私に贈ってくれた吉川英治の言葉は秋山さんにぴったりです。天空で、楽しみあるところ、なきところにも楽しみ、四季折々の変化を味わいながら、ゆっくりと小説を書いてください。下界からみつめています。

入院する数日前まで、杖をついてシルバー大学の事務所に通い続けてくれた秋山さん。「私が育てた学校」という思い、深い愛情をもって、最後まで理事長の役割を果たしてくれました。“当たり前が当たり前でなくなった時、失ったものの大切さを知る。” 秋山さん ありがとう。

平成24年度学園祭を振り返って

11月9日～11日の3日間、お天気にも恵まれ、(最終日の閉会式後多少の雨に見舞われ、帰宅される際の心配はありました)が、無事に事故無く開催出来た事は、生徒さん方の熱意と、そして役員さん方の持ち場での責任ある作業のお蔭であると、心より感謝しております。今年は何年以上の(来場者1324名)多くの方に来て戴きましたし、すごく良い展示だったとお褒めの言葉も多くの方から戴きました。但しこれ等の事に奢ることなく一工夫も、二工夫も重ね、来年25年度はもっと良い、今年を越える学園祭にしたいと思いますので宜しくお願い致します。各教科の先生、役員の皆様、展示にご努力戴いた生徒の皆さんの協力に感謝いたします。有難うございました。

実行委員長 宮澤健一

◎来場者の内訳

日付	一般	受講生	来賓	合計
11月9日～11日	373名	940名	11名	1324名

「絵本と伝承遊び」教室公開のおしらせ

講師 石崎恵子

2学期最後の、お正月向けの教室を公開いたします。

見学だけの方、折り紙をいっしょに体験される方、どうぞいらしてください。

準備の都合上折り紙希望の方は、

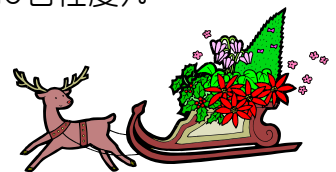
教室代表の小北(3809-1876)までお申し込みください(10名程度)。

と き 12月12日(水)午後1時～3時

場 所 センター3F 第3会議室

内 容 ①伝承折り紙「祝い鶴」「つるのお年玉袋」

②昔話絵本「あとかくしの雪」読み語り



「絵画と創作教室」(金曜・午後)から名称変更のお知らせ

講師 藤島久子

25年度は教室名「絵画と創作教室」から「パステル・絵の具画教室」に名称が変わります。

パステル画とは自由に描きたいものが描ける楽しく巾広い画材です。こすったり、線を入れたり、他の画材と組み合わせたり、子どもの頃クレパスで絵を描

いたように手軽に自分の気持ちを画用紙に表すことができます。

大人の図工教室にぜひご参加ください。

25年度・新教室紹介 「おしゃれニットクラブ教室」 木曜・午後

講師 桜井企佐子（きさこ）

一本の糸から色々な物を一緒に作りましょう！ 「手編みは温かいけど、どうもサイズがピッタリ合わない！ 型が古くて色合いも今一步！ 途中で嫌になってしまう！」 この様な言葉を耳にします。

この教室では手作りの良さと作る方の作品を、より個性ある愛する一品にする事を目的としていますから、完成品は必ず出来ます。季節感溢れる小物も作っていきます。例えば、《マフラー・手袋・ブローチ・バック・人形・リース等々》糸が織り成す世界は無数の楽しさでいっぱいです。“素敵なおしゃれ”とお友達に賞賛してもらえる事を楽しみに、楽しんでいきましょう。



◆◆◆◆◆ 11月の学園日誌 ◆◆◆◆◆

6日	常任理事会・役員会 (学園祭他)	21日	真土教室使用願提出
9～11日	24年度学園祭 (ムーブ町屋にて)	23日	絵手紙教室10周年記念作品展 (町屋文化センター・28日まで)
16日	学園祭・反省会	26日	25年度年間講義日程申請(センターへ)
		26日	シルバーだより第270号完成

1. 12月の変更教室について：自然と小さな旅教室「19日の会場は大会議室」
2. 25年度教室について：

①新教室：おしゃれニット教室 ②再開教室：俳句教室 ③名称変更教室：
書道(初級)教室→書道(金曜)教室、絵画と創作教室→パステル絵の具画教室

3. 25年度学園祭期日：平成25年10月25日(金)・26日(土)・27日(日)です。

後記) 講師そして教室代表の方を中心に、和やかでしかも熱気あふれる24年度の学園祭が幕を閉じました。教室代表の方々は月々役員会に出席し、各教室の皆様へ主旨報告するという大任を担っています。伝統の地区役員そして新風の教室代表役員、共に迎える「創立30周年」を目前に気運が高まり、当校は磐石に頼もしく変貌を遂げます。

事務所 TEL3801-5740 FAX3801-5691

(ホームページ) <http://www.arakawa-silver.com/>

室長・田原